

お礼をする、褒める、励ますなどを言葉で伝え、人間関係を豊かにする。

言葉遣い一つで、無用なトラブルを解消し、人間関係を豊かにします。今回は「言葉の力を育てる」教育メソッドの領域Bを取り上げ、人間関係を豊かにするための授業のあり方を紹介しましょう。



言葉でトラブルを解決する

小さないさかい、トラブルが毎日のように起きているのが、子どもたちの世界です。その際に、子どもたちはトラブルを言葉で解決しようとはせず、とかく力づくで解決しようとしがちです。すぐに手が出てしまいます。

暴力はいけなと言われているいても、家庭を含めての日常生活で言葉による解決の訓練ができてはいません。挨拶もぶっきらぼうです。

これでは他人とのコミュニケーションを、うまく取れないのは当然です。背景には、かつてのような「群れ遊び」の機会がなくなっていることがあげられます。学校から帰っても子どもたちが集まって鬼ごっこをしたり、野球をしたりせず、家に閉じこもってテレビゲームに熱中してしまふ。ほかの子どもとのコミュニケーションがありません。

また、テレビのお笑い番組の影響もあって、単語だけを発する傾向も無視できないでしょう。単語やワンフレーズでは、十分なコミュニケーションが成り立たない

ことを、子どもたちは知らないのです。社会も家庭も、子どもたちにきちんとした挨拶すら教えず、言葉の力を育ててなくなっています。

豊かな人間関係を築くためには、日ごころから、きちんと挨拶したり、相手に分かりやすく「お願い」したり、「ありがとう」とお礼や感謝をしたり、「ごめんなさい」と詫言たり、よいところを褒めたり、言葉の力を借りて気持ちを伝える訓練ができていなくてはなりません。

言葉を問題解決の道具にすることは、今後の社会を考えていく上でも、あるいは子どもたちが社会人になっていくためにも、たいへん重要です。

初級編

色画用紙のカードを使って

●よさを認める力を養う

小学校3年生から中学1年生くらいまで。4月の新学期が始まり、クラスの雰囲気落ち着くゴールデンウィーク明けくらい、道徳や特活の時間がよいでしょう。グループ分けし、色画用紙を花びら形、

あるいはハート形に切り抜いて、一人当たり5〜6枚ずつ配ります。

ここに一言メッセージを書きます。「ありがとうメッセージ」では、クラスのだれかにしてもらって嬉しかったことを書きます。

「うさん、うしてくれてありがとう」という形です。筆箱を拾ってくれてありがとう、部活動で助けてくれてありがとう、漢字を教えてくれてありがとう、いろいろなそれぞれの経験を思い出し、ありがとう体験を探し出します。

相手の名前と自分の名前を書き、カードを相手に配ります。

「よいところメッセージ」では、相手のよいところを褒めます。「う君はうという、よいところがあるね」という形です。

算数の計算が速いね、大きな声で発言していいね、明るくていいね、…と書いて相手に配ります。

いずれも、自分では気づかなかったことが他の人に喜んでもらえた、あるいは、認めて褒めている、という点に気づきます。ここで先生が注意しなくてはならないことは、カードが1枚も来ない子どもが

領域B・人間関係を豊かにする力

◎よさを認める

- ・花びらカード交換会を開く（道徳、特活）
- ・相互評価活動をさせる（各教科、総合、特活）
- ・グループ活動の成果について話し合わせる（総合、体育、特活）

◎笑わせ和ませる

- ・落語、漫才、手品の大会を開く（総合、特活）
- ・ショートコントやジョークを発表させる（総合）
- ・笑い話をつくって読み聞かせや寸劇にして発表する（総合）

◎励まし応援する

- ・励ましカードや手紙の交換会を開く（道徳、特活）
- ・スポーツをしたり、発表、上演をしたりしている友だちの応援をさせる（体育、道徳、総合、特活）

◎心を伝える

- ・感謝状、お礼状を書かせる（国語、総合、道徳）
- ・心を込めた手紙を出させる（国語、総合、道徳）
- ・お礼のスピーチをさせる（総合）
- ・仲直りをさせる（特活、道徳）

◎合意を形成する

- ・学級会や学年集会を開く（特活、委員会活動）
- ・プロジェクト企画書をつくらせる（総合）
- ・作戦会議をもたせる（体育、特活、音楽）

「言葉の力を育てる」教育メソッドより（文科省「言語力養成協力者会議」の提言に田中先生の提案を加えたもの）

ないようにすることです。

みんなが配り終えたら、集めて、黒い画用紙にそのカードを貼ります。経験上、黒い画用紙に色画用紙(カード)を貼ると、ちょうど火花が打ち上げられたような、きれいで目立つ効果があります。

カードを貼った黒画用紙は、教室に掲示します。こうすると、自分が感謝されたり褒められたりしたことが公になります。他の人が見てくれることで、自信がついたという子どももいます。

子どもたちは、ポジティブな言葉をもたうと嬉しい、ということを経験します。

また、感謝も褒めることも、きちんと言葉に出さなければ相手に伝わりませんが、なかなか口に出せません。カードに書いて表現すれば、容易にできます。

中学1年生では、小学校が異なるクラスメートがたくさんいます。こうしたカード交換会をすれば、クラスにホッとした温かい雰囲気をかもし出すこともできます。

●励まし、応援する力を育てる

4〜5年生の道徳の時間では、同じように色カードを使い、**思いやりの言葉**を考えさせます。

「人に思いやりを届けるって、どんなこととだろう」という問いから、どんなことが思いやりになるか話し合います。

さらに、困った人を見たときどうするか、悲しいことがあった人をどう励ますか、などについて、経験したことをカードに書きます。

元気が出るように一緒に遊ぶ、電車で席を譲る、重たいものを持ってあげる、などの「思いやり言葉カード」ができ



ほめほめカードを黒色の画用紙に貼って掲示した様子

たら、模造紙に貼ります。

思いやりを示されたら、どんな言葉でお礼をするかも考えさせます。

「思いやりを言葉(行為)で表す」「思いやりを受けたらお礼を言う」ということの訓練になります。

訓練を繰り返すことで、実際にクラスの雰囲気が変わることもあります。

中級編

お礼の手紙を出す、スピーチをする

●心を伝える力をつける

本シリーズ第1回で紹介した領域Aにも関係する分野ですが、国語、生活科、総合学習で行うことができる授業です。**お礼の手紙やスピーチ**は単に形式を教えるも心がこもりません。子どもたちの体験を通して教えていただきたいと思えます。

1年生では、給食を手伝ってくれた上級生へのお礼状。スピーチ。

低学年から6年生に「卒業おめでとう」の手紙。スピーチ。

収穫祭をしたなら、お米づくりを教えてください。地域の人たちへのお礼状。スピーチ。ボランティアをしたなら、お世話になった人へのお礼状やスピーチ。

よく見かけるお礼のスピーチでは、全員がそろって「ありがとうございます」といつせいに発声し、頭を下げるというものです。

これでは形だけのお礼で、子どもたちの気持ちも顔も見えません。

それよりも、代表の6人くらいが、それぞれ30秒ほどで、名前、お礼、学んだこと(具体的に)、などを大きな声ではつきりとスピーチするほうが勉強になりますし、気持ちも伝わりやすくなります。

挨拶の例文に当てはめてではなく、必ず自分で体験したエピソードや感動などを交えることが、大切です。

こうした訓練は、社会人になったときに役に立ちます。大人社会で冠婚葬祭での紋切り型スピーチの味気なさは、だれでも経験しているはず。きちんと心を伝える言語表現を教えてほしいと思えます。

上級編

イベントプランナーになる

●合意を形成する力を持つ

日本人の合意形成力は未熟です。子ども時代から兄弟姉妹が少ないために合意を形成する必要がなく、家庭では親が決めたこと、学校に行っても先生の決めた

ことに従うだけです。

だから大人になっても会議の仕方が下手です。延々とやるし、声の大きな人の意見が、道理を無視して通ってしまいがちです。

提案に対して意見を出しつくし、一つひとつ精査して、メリット・デメリットを考えた上で、最終応援スピーチを受けて多数決で決める、というルールが身につけていないのが現状です。

合意形成を学ぶには、総合学習はよい機会です。

例えばボランティア活動がテーマならば、コンセプト(紙芝居をしようとか昔話をしようとか)を出し合って決め、活動のプログラムをつくりまします。みんなでアイデアを出し合います。

小さな壁は乗り越え、みんなで大きな目標に向かって合意を形成していくという訓練です。

クリスマスパーティーやキャンプファイアーといったさまざまな行事、委員会活動、2泊3日の宿泊体験、子ども会のお楽しみ会、など多くのイベントでも合意形成の勉強はできます。

イベントプランナーのような体験を通して、合意形成のコツやルール、難しさを学んでほしいと思えます。

●田中博之●早稲田大学大学院教職研究科教授。専門は教育工学および教育方法学。研究活動として、総合的な学習のカリキュラム開発、情報教育や小学校英語教育の単元開発、ドラマとサークルタイムの指導法の開発、学力調査の開発研究等。著書多数。近著に『フィンランド・メソッドの学力革命』(明治図書)がある。